

## 本書の構成

本書は、全体が十の章に分かれています。一つの章は四単元で構成されています。前半の単元では、読解の基本である「文学的文章」と「説明的文章」を中心に学び、中盤以降ではそれらに加えて、「詩・短歌・俳句」の韻文単元、「古典」、「文法」、「漢字・語句」、「表現・作文」をバランスよく組み合わせています。一章四単元というスムーズなステップをこなすことで、国語の学力を無理なく高めることができます。いくつかの単元には、導入パートが設けられており、その単元に取り組みにあたって、基本的な考え方を学習することができます。

## 導入パート

第1章 1 文学的文章 (1) 小説

① 小説の定義と分類

② 小説の要素

③ 小説の展開

④ 小説の表現

⑤ 小説の鑑賞

⑥ 小説の創作

⑦ 小説の発展

⑧ 小説の未来

⑨ 小説の意義

⑩ 小説の楽しみ

⑪ 小説の楽しみ

⑫ 小説の楽しみ

⑬ 小説の楽しみ

⑭ 小説の楽しみ

⑮ 小説の楽しみ

⑯ 小説の楽しみ

⑰ 小説の楽しみ

⑱ 小説の楽しみ

⑲ 小説の楽しみ

⑳ 小説の楽しみ

㉑ 小説の楽しみ

㉒ 小説の楽しみ

㉓ 小説の楽しみ

㉔ 小説の楽しみ

㉕ 小説の楽しみ

㉖ 小説の楽しみ

㉗ 小説の楽しみ

㉘ 小説の楽しみ

㉙ 小説の楽しみ

㉚ 小説の楽しみ

㉛ 小説の楽しみ

㉜ 小説の楽しみ

㉝ 小説の楽しみ

㉞ 小説の楽しみ

㉟ 小説の楽しみ

㊱ 小説の楽しみ

㊲ 小説の楽しみ

㊳ 小説の楽しみ

㊴ 小説の楽しみ

㊵ 小説の楽しみ

㊶ 小説の楽しみ

㊷ 小説の楽しみ

㊸ 小説の楽しみ

㊹ 小説の楽しみ

㊺ 小説の楽しみ

㊻ 小説の楽しみ

㊼ 小説の楽しみ

㊽ 小説の楽しみ

㊾ 小説の楽しみ

㊿ 小説の楽しみ

第1章 3 説明的文章 (1)

① 説明的文章の定義

② 説明的文章の種類

③ 説明的文章の要素

④ 説明的文章の展開

⑤ 説明的文章の表現

⑥ 説明的文章の鑑賞

⑦ 説明的文章の創作

⑧ 説明的文章の発展

⑨ 説明的文章の未来

⑩ 説明的文章の意義

⑪ 説明的文章の楽しみ

⑫ 説明的文章の楽しみ

⑬ 説明的文章の楽しみ

⑭ 説明的文章の楽しみ

⑮ 説明的文章の楽しみ

⑯ 説明的文章の楽しみ

⑰ 説明的文章の楽しみ

⑱ 説明的文章の楽しみ

⑲ 説明的文章の楽しみ

⑳ 説明的文章の楽しみ

㉑ 説明的文章の楽しみ

㉒ 説明的文章の楽しみ

㉓ 説明的文章の楽しみ

㉔ 説明的文章の楽しみ

㉕ 説明的文章の楽しみ

㉖ 説明的文章の楽しみ

㉗ 説明的文章の楽しみ

㉘ 説明的文章の楽しみ

㉙ 説明的文章の楽しみ

㉚ 説明的文章の楽しみ

㉛ 説明的文章の楽しみ

㉜ 説明的文章の楽しみ

㉝ 説明的文章の楽しみ

㉞ 説明的文章の楽しみ

㉟ 説明的文章の楽しみ

㊱ 説明的文章の楽しみ

㊲ 説明的文章の楽しみ

㊳ 説明的文章の楽しみ

㊴ 説明的文章の楽しみ

㊵ 説明的文章の楽しみ

㊶ 説明的文章の楽しみ

㊷ 説明的文章の楽しみ

㊸ 説明的文章の楽しみ

㊹ 説明的文章の楽しみ

㊺ 説明的文章の楽しみ

㊻ 説明的文章の楽しみ

㊼ 説明的文章の楽しみ

㊽ 説明的文章の楽しみ

㊾ 説明的文章の楽しみ

㊿ 説明的文章の楽しみ

# 目次 国語 Vol.3 α

## 第1章

1 文学的文章 (1) (小説) …………… 4

2 文学的文章 (2) (小説) …………… 8

3 説明的文章 (1) …………… 12

4 説明的文章 (2) …………… 16

## 第4章

13 文学的文章 (6) (随筆) …………… 52

14 説明的文章 (6) …………… 56

15 古典 (1) …………… 60

16 文法 (1) (文の組み立て) …………… 64

## 第2章

5 文学的文章 (3) (随筆) …………… 20

6 文学的文章 (4) (随筆) …………… 24

7 説明的文章 (3) …………… 28

8 説明的文章 (4) …………… 32

## 第5章

17 文学的文章 (7) (随筆) …………… 68

18 説明的文章 (7) …………… 72

19 短歌・俳句 (1) …………… 76

20 漢字・語句 (2) (類義語・対義語／ことわざ・慣用句など) …………… 80

## 第3章

9 文学的文章 (5) (小説) …………… 36

10 説明的文章 (5) …………… 40

11 詩 (1) …………… 44

12 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／熟語の知識) …………… 48

## 第6章

21 文学的文章 (8) (随筆) …………… 84

22 説明的文章 (8) …………… 88

23 詩 (2) …………… 92

24 文法 (2) (品詞の分類ほか) …………… 96

第7章

25 文学的文章 (9) (隨筆)

100

26 说明的文章 (9)

104

27 古典 (2)

108

28 表现·作文 (1)

112

第8章

29 文学的文章 (10) (小説)

116

30 说明的文章 (10)

120

31 短歌·俳句 (2)

126

32 文法 (3) (単語の識別)

130

第9章

33 文学的文章 (11) (小説)

134

34 说明的文章 (11)

138

35 古典 (3)

144

36 表现·作文 (2)

148

第10章

37 文学的文章 (12) (小説)

152

38 说明的文章 (12)

156

39 古典 (4)

162

40 文法 (4) (文法総合)

166

付録：漢字練習 1 ~ 40

170

# 第1章

## 1 文学的文章 (1) (小説)

### テーマ 主題をとらえる

小説の主題とは、登場人物の行動や心情、考え方、出来事の展開や結末などから読み取れる、その小説のテーマのことです。ここでは主題を読み取る場合に注目すべき点を学んでいきます。

### 1 小説の主題のとらえ方

次のような点に注目して小説の主題をとらえましょう。

#### ① 主人公の生き方・考え方に注目する

小説では、人物が自分なりの生き方・考え方にもとづいて行動したり、発言をしたりすることによって話が展開する。その生き方・考え方から主題が読み取れることが多い。

#### 人物の生き方・考え方

**例** Aは自分の要領の悪さがつくづくわかっていた。だからこそ、何事にも手をぬかずにまじめに作業することを肝に銘じた。Aはひたすらそうして仕事にはげんだ。そんなAを、親方はひそかに認めていた。

**主題** 手をぬかずにひたすらまじめに仕事に取り組む主人公の生き方

#### ② 会話文に注目する

会話文には、その人物の考え方がはっきりと述べられる。特に長い会話文には、主題に関わることが述べられていることがある。

**例** 「失敗を恐れるな。人は多くの失敗を経験することで成長するものなんだ。失敗することはおれたちにとってはむしろ成功なんだよ。」とキャプ

テンが言った。そのことばは「ぼく」の胸に強くひびいた。

**主題** 失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さ

#### 人物の考え方

#### ③ 心情の変化に注目する

主人公の心情（考え）の変化は、物語の中心をなすことが多く、主題をつかむうえで最も注目すべき点といえる。心情の変化の過程で、主人公が新たに気づいたこと、考えたことなどに注目して主題をとらえる。

**例** 一日中、畑仕事を手伝わされて、へとへとだった。

ぼくは早くも都会での暮らしが恋しくなっていた。

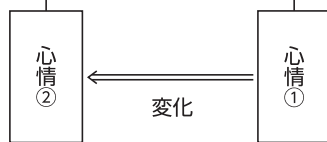
夕食におばあさんが畑で取れた野菜をふんだんに使った料理を出してくれた。それは、もうびっくりするほどおいしかった。

その晩、お風呂で一日の疲れをいやしながら、ぼく

はふと、田舎暮らしも悪くないかもしれないと思った。

**主題** 田舎暮らしのよさへの「ぼく」の気づき

**主題** 田舎暮らしのよさへの「ぼく」の気づき



#### ④ 話の結末に注目する

物語の結末には、その小説の主題が表れやすい。結末からどのようなことが読み取れるかを考えて主題をつかむ。

**例** 結局のところ、その欲張りな男は、すべての財産を失ってしまった。

**主題** 欲を張ることのおろかさ

〈川上健一「理由」より〉

(1) —線部「私がレースで滑っている写真は一枚もない」について、次のそれぞれ問いに答えなさい。

① 「私」はその理由をどう考えていましたか。本文中から十八字で書き抜いて答えなさい。

② このあと「私」が理解した本当の理由を書いて答えなさい。

(2) 本文の主題として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 決して諦めることなく懸命に努力する息子への賞賛。

イ 自分自身の体験を通じて初めて気づいた父の愛情。

ウ 父と同じ過ちをおかしてしまったことの後悔。

エ 息子との思い出を大切にしようとする父親の愛情。

### 解法のポイント

(1) ① **内容理解** 「私」がレースで滑っている写真が残っていない理由について、「私」の考えが書かれている部分をとらえましょう。二つあとの文

に「倍率の大きな望遠レンズがなかったから」とあります。

② **心情** 「息子が一生懸命頑張っているのに、親の俺が応援しないで写真なんか撮ってられるか！」に注目。父が「私」のレース中の写真を撮らなかつたのは、「息子を応援するのに夢中で、写真を撮っている場合ではなかつたから。」だということがわかります。

(2) **主題** 息子の応援に夢中になるあまりビデオ撮影を忘れてしまうという体験を自分自身がすることで、父親がなぜ自分のスケート中の姿を写真に撮っていなかつたのかを理解し、その愛情に気づくという筋立てになっています。したがって、主題としてはイ「自分自身の体験を通じて初めて気づいた父の愛情。」が適切だといえます。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈新美南吉「雀」より〉

□ (1) **語意** — 線①「さじを投げ」とありますが、「さじを投げる」

の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 苦心する

イ いらいらする

ウ あきらめる

エ 人にまかせる

□ (2) **表現内容**

— 線②「学校にあつても、私はチュツチュツという雀の鳴き声ばかりを耳にした」とは、どういうことを表現していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 教室の窓の外で鳴く雀に「私」が気をとられていたということ。

イ 家に置いて来た子雀のことばかり「私」が考えていたということ。

ウ 教室のみんなが盛んに雀の口まねをして遊んでいたということ。

エ 学校でも雀を飼っていて、教室がにぎやかだったということ。

□ (3) **心情**

— 線③「私の懸念」とは、どういう懸念ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 子雀は、何も食べないで弱っているのではないか。

イ 子雀は、私より母になつているのではないか。

ウ 子雀は、今ごろ籠をぬけ出しているのではないか。

エ 子雀に食べさせるのに竹ばしでは駄目なのではないか。

□ (4) **主題** — 本文中から、「私」はどのような子であることがわかりま

すか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 心配性で、怒りっぽい子。

イ 無邪気で、心の優しい子。

ウ 知恵が働いて、よく気がつく子。

エ 大らかで、心のゆとりがある子。

(注) 意気阻喪⇨すっかり元気がなくなること。

〔首野綾子「太郎物語」より〕

□(1) **語意** ——— 線①「げんをかついで」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 前例に従って  
イ 運にまかせて  
エ 希望をもって

□(2) **心情** ——— 線②「すべてが気になる」とありますが、この心理状態をくわしく表現していることばを本文中から四十二字（読点も字数に数えます）で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。


□(3) **主題** 本文中で中心的に描かれている太郎の姿として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の体調の良さを自覚して、自信満々で相手を見下ろし、心のゆとりを保っている。
- イ 緊張して神経質になりながらも、感情の高まりを抑え、落ち着きを失うまいとしている。
- ウ 張り切って闘争心をかき立てる一方で、ライバルとなる相手たちの様子を見つめて観察している。
- エ 少しでも自分が優位に立てるように、競争相手たちに重圧をかけようとして知恵を巡らせている。